中小企業動向調査

この調査は富山県内企業422社を対象に実施し、317社より回答があり、その結果をまとめたものである。

企業の調査資料として、平成22年4月~6月の実績、平成22年7月~9月の見込み、平成22年10月~12月の先行き見通しを集約した概要である。なお、季節調整は行っていない。

調查時期:平成22年6月下旬

	調査対象企業数	有効回答企業数	有効回答率
製 造 業	199	148	74.4%
非 製 造 業	223	169	75.8%
計	422	317	75.1%

日銀が8月12日に公表した、北陸の金融経済月報(2010年8月)によると、「北陸の景気は、依然として厳しい面もみられるが、着実に持ち直している。

最終需要をみると、公共投資は減少が続いているものの、輸出は中国等アジア向けを中心に増勢が強まっている。設備投資は下げ止まっているほか、住宅投資は下げ止まりつつある。個人消費も、低調ながらも政策効果等から下げ止まりつつある。この間、企業収益は低水準ながら改善している。また、雇用・所得は厳しさが幾分和らいでいる。

先行きは、輸出や生産の着実な増加が、除々に国内民間需要に波及していくと見込まれる ことから、全体として穏やかな回復に向かうとみられる。」としている。

I. 企業概況

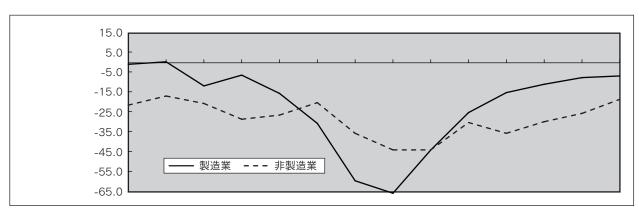
企業概況の推移…… (全産業) (%) 見込 予測 22 20 年 21 年 年 19 期別 $7 \sim |10 \sim |1 \sim |4 \sim$ $7 \sim |10 \sim$ $1 \sim |4 \sim |7 \sim |10 \sim$ $7 \sim |10 \sim$ 1~ 4~ 9月 | 12月 | 3月 | 9月 | 12月 | 3月 | 6月 | 9月 | 12月 | 3月 9月 12月 6月 6月 種別 良 () 13.6 | 14.6 | 12.6 | 12.9 8.4 9.4 4.4 3.4 3.6 7.9 11.0 | 11.1 | 10.5 | 8.6 通 61.1 62.3 | 58.4 | 56.6 | 62.2 56.3 44.7 | 39.8 | 49.0 | 56.4 52.0 56.8 61.9 69.8 悪 25.3 23.1 | 29.0 | 30.5 29.4 (1) 34.4 50.9 | 56.8 | 47.4 35.6 37.0 32.1 | 27.6 | 21.6 -11.8 -8.5 | -16.4 | -17.6 | -21.0 | -25.0 | -46.5 | -53.4 | -43.9 | -27.7 | -26.0 | -21.0 | -17.1 | -13.0 D. I. 10.0 0.0 -10.0 -20.0 – D.I. -30.0 -40.0 -50.0 -60.0

企業概況の推移…… (うち製造業のみ)

														(%)	見込	予測
		期別	19	年		20	年			21	年			22	年	
			7~	10~	1~	4~	7~	10~	1~	4~	7~	10~	1~	4~	7~	10~
1	重別		9月	12月	3月	6月	9月	12月	3月	6月	9月	12月	3月	6月	9月	12月
	良	١,	20.0	19.9	14.6	16.3	10.2	8.4	2.6	0.7	5.7	10.0	20.5	17.7	15.6	12.2
	普	通	58.9	60.8	59.1	61.2	64.1	52.6	35.5	33.1	44.7	55.0	43.8	53.7	61.2	68.7
	悪	ζ,	21.1	19.4	26.3	22.5	25.7	39.0	61.9	66.2	49.6	35.0	35.6	28.6	23.1	19.0
	D.	Ι.	-1.1	0.5	-11.7	-6.2	-15.6	-30.5	-59.4	-65.6	-44.0	-25.0	-15.1	-10.9	-7.5	-6.8

企業概況の推移…… (うち非製造業のみ)

													(%)	見込	予測
	期別	19	年		20	年			21	年			22	年	
		7~	10~	1~	4~	l	10~	I	4~	7 ~		1~	4~	7~	10~
種兒	訓	9月	12月	3月	6月	9月	12月	3月	6月	9月	12月	3月	6月	9月	12月
良	()	7.8	9.8	10.8	9.7	6.7	10.2	6.0	5.8	1.8	6.1	2.9	5.4	6.0	5.4
普	通	63.1	63.7	57.7	52.2	60.6	59.6	52.5	45.7	52.7	57.7	59.0	59.5	62.5	70.8
悪	()	29.1	26.5	31.4	38.2	32.8	30.1	41.5	48.6	45.6	36.2	38.2	35.1	31.5	23.8
D	. I .	-21.4	-16.7	-20.6	-28.5	-26.1	-19.9	-35.5	-42.8	-43.8	-30.1	-35.3	-29.8	-25.6	-18.5



(1) こうした北陸の状況の中で富山県内の中小企業の業況を全産業で見てみると、業況判断 指数 D.I.「良い-悪い」の22年4~6月期実績は▲21.0と前期比5.0ポイント改善した。

先行きについて、22年7~9月期のD.I.は▲17.1となり、22年10~12月期予想は▲13.0と改善していく予想となっている。

D.I.は、21年4~6月期を最低ポイントとして、除々に改善してきている状況である。

(2) 業況判断指数D.I.の22年4~6月期を製造業と非製造業に分けてみると、製造業は前期より4.2ポイント改善し、▲10.9となった。先行きについても改善していく回答となっている非製造業では、前期比5.5ポイント改善し、▲29.8となった。

非製造業も先行きは改善する予想となっている。

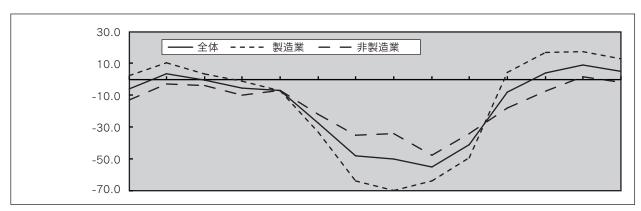
非製造業の底は、21年7~9月期の▲43.8であり、マイナスポイントは高いが、改善してきている。

II. 売上高状況

壳	上高	状涉	Z												(%)	見込	予測
			HH HT	19	年		20	年			21	年			22	年	
		\	期別	7 ~	10~	1~	4~	7 ~	10~	1~	4~	7 ~	10~	1~	4~	7 ~	10~
	種別			9月	12月	3月	6月	9月	12月	3月	6月	9月	12月	3月	6月	9月	12月
	増		加	26.0	31.5	30.1	26.5	26.0	18.5	11.8	12.7	10.0	14.5	28.0	34.5	31.0	26.3
	横	ば	()	42.2	40.4	39.2	41.2	40.9	35.4	28.0	24.1	24.9	29.9	36.2	34.8	47.2	52.5
	減		少	31.8	28.2	30.7	31.6	33.1	46.1	60.2	63.2	65.0	55.6	35.8	30.7	21.8	21.2
	D.	I		-5.9	3.3	-0.5	-5.7	-7.1	-27.6	-48.4	-50.5	-55.0	-41.1	-7.9	3.8	9.2	5.1

売	上高	状沥	1 (う	ち製造	造業の)み)									(%)	見込	予測
ſ		1	나마 마리	19	年		20	年			21	年			22	年	
		\\	期別	7~	10~	1~	4~	7 ~	10~	1~	4~	7 ~	10~	1~	4~	7 ~	10~
	種別			9月	12月	3月	6月	9月	12月	3月	6月	9月	12月	3月	6月	9月	12月
	増		加	31.0	36.5	34.0	30.6	28.6	17.1	7.8	7.4	7.8	13.4	35.6	43.9	37.8	32.4
	横	ば	()	40.2	37.1	3.5	37.8	35.7	32.2	20.6	15.4	20.6	23.9	32.9	29.1	41.9	48.0
	減		少	28.8	26.3	30.4	31.7	35.7	50.7	71.6	77.2	71.6	62.7	31.5	27.0	20.3	19.6
	D.	I		2.2	10.2	3.5	-1.1	-7.1	-33.6	-63.9	-69.8	-63.8	-49.3	4.1	16.9	17.6	12.8

芫	上高.	状沥	1 (う	ち非	製造業	きのみ)									(%)	見込	予測
ſ		1		19	年		20	年			21	年			22	年	
		,	期別	7 ~	10~	1~	4~	$7 \sim$	10~	1~	4~	7 ~	10~	1~	4 ~	$7 \sim$	10~
	種別			9月	12月	3月	6月	9月	12月	3月	6月	9月	12月	3月	6月	9月	12月
	増		加	21.4	26.9	26.8	22.8	23.6	19.8	15.2	17.2	11.9	15.4	21.5	26.2	25.0	20.8
	横	ば	6)	43.9	43.3	42.3	44.4	45.6	38.3	34.2	31.6	28.6	35.2	39.0	39.9	51.8	56.5
	減		少	34.6	29.8	30.9	32.8	30.8	41.9	50.5	51.1	59.5	49.4	39.5	33.9	23.2	22.6
	D.	I		-13.2	-2.9	-4.1	-10.1	-7.1	-22.2	-35.3	-33.9	-47.6	-34.0	-18.0	-7.7	1.8	-1.8



- (1) 売上高は、前年同期比較での増減について回答を受けている項目である。今回調査では、D.I.は3.8となり、前期より11.7ポイント改善しプラスポイントとなった。 先行きについても、改善予想となっており、22年7~9月期のD.I.は9.2。 また、22年10~12月期のD.I.は5.1と予測している。
- (2) 売上高状況D.I.を製造業と非製造業で分けると、製造業、非製造業とも前期比改善となった。製造業は12.8ポイント、非製造業は10.3ポイント改善した。

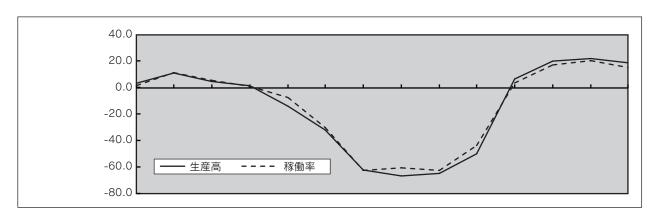
また、先行きについても製造業、非製造業とも改善予想となっており、非製造業はプラスポイントの見込みとなっている。

Ⅲ. 生産高·稼働率状況

生産高状況 (製造業のみ)

Τ.		世来り	1) (5)										(%)	見込	予測
ſ	#17 171	19	年		20	年			21	年			22	年	
	期別	7~	10~	1~	4~	7~	10~	1~	4~	7~	10~	1~	4~	7~	10~
	種別	9月	12月	3月	6月	9月	12月	3月	6月	9月	12月	3月	6月	9月	12月
	20%以上增加	8.1	7.9	4.4	5.9	1.8	1.9	1.3	0.7	0.0	2.2	12.9	19.4	14.4	9.4
	20%未満増加	21.4	27.5	28.8	24.1	21.2	14.6	5.9	5.2	7.1	9.5	24.3	26.6	26.6	28.1
ĺ	横ばい状況	43.9	39.9	38.1	41.2	39.4	34.8	22.9	21.6	20.6	26.3	32.1	28.1	40.3	43.9
ı	20%未満減少	23.1	21.3	25.6	26.5	30.3	35.4	33.3	32.7	36.2	38.0	22.1	18.7	12.2	12.9
ĺ	20%以上減少	3.5	3.4	3.1	2.4	7.3	13.3	36.6	39.9	36.2	24.1	8.6	7.2	6.5	5.8
	D . I .	2.9	10.7	4.4	1.2	-14.5	-32.3	-62.7	-66.7	-65.2	-50.4	6.4	20.1	22.3	18.7

稼働率 (製	造業	のみ)											(%)	見込	予測
	-H H-I	19	年		20	年			21	年			22	年	
	月別	7~	10~	1~	4~	7 ~	10~	1~	4~	7 ~	10~	1~	4~	7 ~	10~
種別		9月	12月	3月	6月	9月	12月	3月	6月	9月	12月	3月	6月	9月	12月
上	昇	5.9	6.9	4.6	7.2	2.6	1.9	0.7	0.7	0.0	2.9	13.6	21.4	17.1	11.4
やや上	昇	18.9	25.3	27.8	21.7	19.9	13.5	5.4	6.6	8.1	10.2	22.9	22.1	21.4	21.4
横ば	6)	52.1	47.1	40.4	43.4	47.4	39.1	26.2	25.0	21.3	29.9	30.7	30.0	43.6	49.3
やや下	降	18.3	17.8	23.8	25.3	24.4	30.1	30.2	22.4	33.1	38.0	22.9	18.6	10.7	11.4
下	降	4.7	2.9	3.3	2.4	5.8	15.4	37.6	45.4	37.5	19.0	10.0	7.9	7.1	6.4
D . I		1.8	11.5	5.3	1.2	-7.7	-30.1	-61.7	-60.5	-62.5	-43.8	3.6	17.1	20.7	15.0

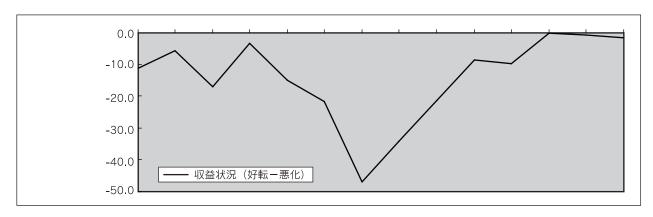


- (1) 生産高・稼働率ともに売上高と同様、前年同期比での増減について回答を受けている項目である。製造業の生産高状況D.Iは、前期比13.7ポイント改善し20.1となった。 先行きについても、改善予想であり、7~9月は22.3と1~3月比15.9ポイント改善する予想となっている。
- (2) 稼働率状況D.I.は、前期比13.5ポイント改善し、17.1となった。 先行きについても、生産高同様に改善見込となっており、7~9月期は20.7としている。

稼働率は、生産高と同様の変化をしており、改善してきている。

Ⅳ. 収益状況

1X -	11111111111111111111111111111111111111	.17L V	(好丁里)	一志』											(%)	見込	予測
ſ		赶用	別	19	年		20	年			21	年			22	年	
			/1.1	$7 \sim$	10~	1~	4~	$7 \sim$	10~	1~	4~	7 ~	10~	1~	4~	7 ~	10~
	種別			9月	12月	3月	6月	9月	12月	3月	6月	9月	12月	3月	6月	9月	12月
	好		転	12.4	18.5	16.1	20.1	12.7	12.7	5.6	11.1	13.5	17.1	19.0	21.1	15.5	12.7
	横	ば	しょ	63.9	57.5	50.8	56.5	59.5	52.8	41.9	43.5	51.4	57.2	52.3	57.7	68.4	73.1
	悪		化	23.7	24.1	33.1	23.4	27.7	34.5	52.5	45.4	35.0	25.7	28.7	21.1	16.1	14.2
	D .	I		-11.3	-5.6	-16.9	- 3.3	-15.0	-21.7	-46.9	- 34.3	-21.5	- 8.6	-9.7	0.0	-0.6	-1.6

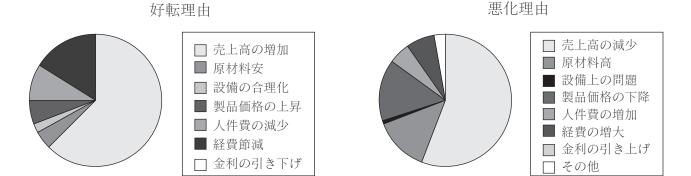


好転理由

												(%)	見込	予測
期別	19	年		20	年			21	年			22	年	
	7~	10~	1~	4~	7~	10~	1~	4~	7~	10~	1~	4~	7 ~	10~
種別	9月	12月	3月	6月	9月	12月	3月	6月	9月	12月	3月	6月	9月	12月
売上高の増加	66.2	64.4	58.9	57.0	65.1	64.3	52.5	49.2	63.9	54.2	63.3	62.5	59.4	64.8
原材料安	1.5	2.3	2.2	0.9	4.8	14.3	12.5	6.6	8.2	11.1	5.1	4.5	0.0	1.9
設備の合理化	3.1	2.3	2.2	1.9	0.0	1.8	5.0	6.6	1.6	2.8	3.8	2.3	6.3	1.9
製品価格の上昇	7.7	6.9	14.4	17.8	11.1	5.4	0.0	1.6	0.0	0.0	2.5	5.7	4.7	1.9
人件費の減少	3.1	6.9	5.6	6.5	3.2	1.8	12.5	18.0	11.5	12.5	10.1	9.1	12.5	11.1
経費節減	16.9	16.1	13.3	15.9	12.7	12.5	17.5	6.4	14.8	19.4	15.2	15.9	17.2	18.5
金利の引き下げ	1.5	1.1	3.3	0.0	3.2	0.0	0.0	1.6	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0

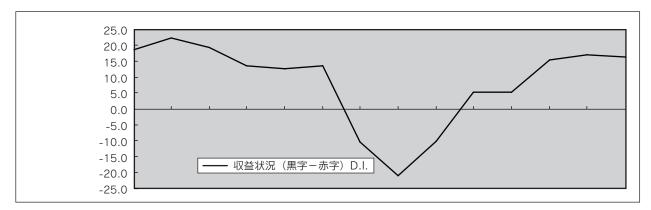
悪化	理由
----	----

悪化理由													(%)	見込	予測
1	钥別	19	年		20	年			21	年			22	年	
\	V1)),1	7 ~	10~	1~	4~	7 ~	10~	1~	4~	$7 \sim$	10~	1~	4~	7~	10~
種別		9月	12月	3月	6月	9月	12月	3月	6月	9月	12月	3月	6月	9月	12月
売上高の	D減少	17.6	48.0	53.0	46.2	43.3	60.6	68.6	64.9	62.7	68.1	65.2	56.1	53.4	55.0
原材制	料 高	21.0	26.3	29.2	31.7	30.4	14.3	6.3	4.8	3.6	4.2	5.0	13.2	13.6	18.8
設備上0)問題	2.1	1.3	0.0	0.0	1.8	0.0	0.8	1.0	1.2	1.7	1.4	0.9	2.3	1.3
製品価格	の下降	11.9	5.3	4.8	4.8	8.2	11.4	12.5	18.3	16.6	14.3	13.5	14.9	13.6	12.5
経費の	増大	10.5	11.8	5.4	9.0	9.4	6.9	5.1	5.3	7.7	5.0	5.0	5.3	4.5	5.0
人件費0	D増加	4.2	5.3	5.4	4.8	4.1	4.0	4.7	4.8	4.1	3.4	2.8	7.0	9.1	6.3
金利の引	き上げ	0.0	0.0	0.6	1.4	0.6	0.0	0.4	0.5	0.6	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
その	他	2.8	2.0	1.8	2.1	2.3	2.9	1.6	0.5	3.6	3.4	7.1	2.6	3.4	1.3



- (1) 収益状況「好転-悪化」D.I.は、0.0と前期比9.7ポイント改善となった。収益状況は2 1年1~3月期を底に改善しており、今回調査では0.0ポイントまで改善となった。先行き は、やや悪化見込となっているがほぼ横ばいである。
- (2) 今期収益が好転した理由は、「売上高の増加」とするポイントが全体の62.5%となり次が経費節減の15.9%となった。売上の増加に伴い収益は改善されている。先行きについても、「売上高の増加」「経費節減」とする理由が高いポイントとなっている。
- (3) 収益が悪化した理由は、「売上高の減少」「製品価格の下降」「原材料高」が高いポイントとなっている。売上高の増加ポイントが増え「売上高の減少」を理由とするポイントは減少している。また、悪化理由として「原材料高」を理由とするポイントが増加している。「売上高状況」の指数も改善予想となっており、収益に反映している。

X	益状況	(黒字	一價差	即後赤	(字)									(%)	見込	予測
ſ		### ##	19	年		20	年			21	年			22	年	
1		期別	7 ~	10~	1~	4~	7~	10~	1~	4~	7~	10~	1~	4~	7 ~	10~
	種別		9月	12月	3月	6月	9月	12月	3月	6月	9月	12月	3月	6月	9月	12月
	黒	字	38.3	41.9	39.1	34.7	34.3	36.6	25.0	19.0	23.5	27.0	28.5	36.0	32.8	31.5
	収支ト	ントン	41.9	38.6	41.3	44.1	44.1	40.4	39.6	41.1	42.6	51.3	48.3	43.3	51.3	53.2
	償却後	後赤字	19.8	19.5	19.7	21.2	21.6	23.0	35.4	39.9	33.9	21.7	23.2	20.7	15.9	15.3
	D .	Ι.	18.5	22.4	19.4	13.5	12.7	13.6	-10.4	-20.9	-10.3	5.3	5.3	15.3	16.9	16.2
L	D .	1 .	18.5	22.4	19.4	13.5	12.7	13.6	-10.4	-20.9	-10.3	5.3	5.3	15.3	16.9	16



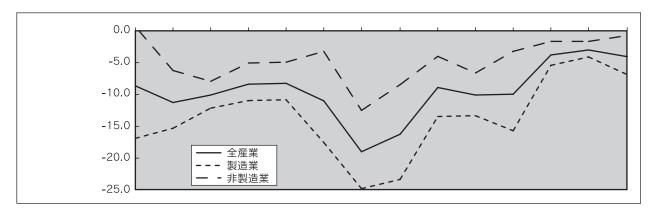
(4) 収益状況「黒字ー償却後赤字」D.I.は、前期比大幅改善し、+15.3となった。前期より 改善ポイントは10.0ポイントとなっている。先行きについても、22年7~9月期は+16.9 と改善予想となっている。収益状況においては、黒字と回答する企業の比率が増加してい る。

Ⅴ. 製品在庫水準

製	品在庫	軍水準												(%)	見込	予測
		期別	19	年		20	年			21	年			22	年	
		741711	7~	10~	1~	4~	7~	10~	1~	4~	7 ~	10~	1~	4~	7~	10~
	種別		9月	12月	3月	6月	9月	12月	3月	6月	9月	12月	3月	6月	9月	12月
	不	足	4.4	1.6	1.7	2.7	3.3	1.5	1.5	2.2	3.5	3.1	1.1	4.5	3.0	2.3
	適	正	82.6	85.5	86.3	86.2	85.1	86.0	78.0	79.2	84.0	83.5	87.7	87.2	91.0	91.4
	過	剰	13.1	12.9	11.9	11.1	11.6	12.5	20.5	18.6	12.5	13.3	11.1	8.3	6.0	6.4
	D.	Ι.	-8.7	-11.3	-10.2	-8.4	-8.3	-11.1	-19.0	-16.4	-9.0	-10.2	-10.0	-3.8	-3.0	-4.1

患	品在庫	 	(うち	製造業	色のみ)								(%)	見込	予測
		期別	19	年		20	年			21	年			22	年	
	44 11	741711	7~	10~	1~	4~	7~	10~	1~	4~	7~	10~	1~	4~	7~	10~
	種別		9月	12月	3月	6月	9月	12月	3月	6月	9月	12月	3月	6月	9月	12月
	不	足	2.3	1.1	1.3	1.2	2.6	1.4	0.7	2.1	4.5	3.7	0.0	5.5	2.8	2.1
	適	正	78.5	82.4	85.3	86.6	84.0	79.7	73.8	72.4	77.4	79.3	84.3	83.4	90.3	89.0
	過	剰	19.2	16.5	13.5	12.2	13.5	18.9	25.5	25.5	18.0	17.0	15.7	11.0	6.9	9.0
	D.	Ι.	-16.9	-15.3	-12.2	-11.0	-10.9	-17.6	-24.8	-23.4	-13.5	-13.3	-15.7	- 5.5	-4.1	-6.9

製	品在庫	[水準	(うち	非製造	意業の	み)								(%)	見込	予測
		期別	19	年		20	年			21	年			22	年	
		73171.1	7 ~	10~	1~	4~	7 ~	10~	1~	4~	7 ~	10~	1~	4~	7 ~	10~
	種別		9月	12月	3月	6月	9月	12月	3月	6月	9月	12月	3月	6月	9月	12月
	不	足	6.7	2.1	2.2	4.5	4.2	1.6	2.3	2.3	2.4	2.5	2.5	3.3	3.3	2.5
	適	正	87.2	89.4	87.6	85.8	86.7	93.5	82.8	86.8	91.1	88.3	91.7	91.7	91.7	94.2
	過	剰	6.0	8.5	10.2	9.7	9.2	4.9	14.8	10.9	6.5	9.2	5.8	5.0	5.0	3.3
	D .	Ι.	0.7	-6.3	-8.0	-5.2	-5.0	-3.3	-12.5	-8.5	-4.1	-6.7	- 3.3	-1.7	-1.7	-0.8



- (1) 全産業の製品在庫水準「不足ー過剰」D.I.は、22年4~6月期は▲3.8となり、前期比6.2 ポイントの改善となっている。先行きについては、ポイントは横ばいであり、過剰感は低下する予想となっている。製造業、非製造業別では、製造業が前期比10.2ポイント改善となった。
- (2) 業種別では、高岡銅器、不動産業、鋼材建材販売が過剰感の高いポイントとなった。高岡銅器、不動産業は前期も高い過剰感であった。今期は、木材業が過剰から不足へ変化している。繊維は過剰との回答が32.6ポイント改善された。

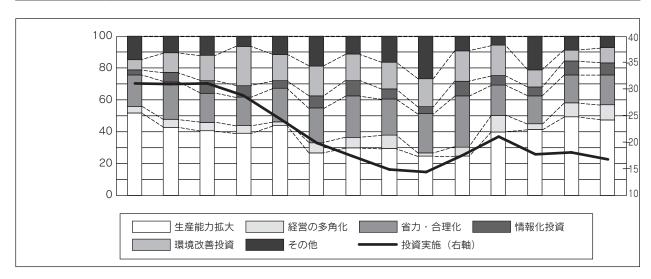
Ⅵ. 設備投資動向

設	と備投資の有無												(%)	見込	予測
	期別	19	年		20	年			21	年			22	年	
		7 ~	10~	1~	4~	7 ~	10~	1~	4~	7 ~	10~	1~	4~	7 ~	10~
	種別	9月	12月	3月	6月	9月	12月	3月	6月	9月	12月	3月	6月	9月	12月
	投資実施	31.4	30.9	31.1	28.8	24.4	19.8	17.3	14.8	14.4	17.4	21.0	17.7	18.0	16.7
	投資せず	68.6	69.1	68.8	71.2	75.6	80.2	82.7	85.2	85.6	82.6	79.0	82.3	82.0	83.3

設備投資の目的(実施先について)

/	$\Omega /$	١
1	$U/_{\sim}$	-1
١.	/()	- 1

生産	能力排	広大	51.6	42.6	40.4	38.7	43.5	26.6	29.5	29.2	24.4	24.5	39.7	41.1	49.1	47.2
経営	の多角	角化	4.1	4.9	5.3	4.7	2.4	6.3	6.6	8.3	2.2	5.7	10.3	3.6	8.8	9.4
省力	1・合理	里化	19.7	23.8	18.4	17.9	21.2	21.9	26.2	22.9	24.4	32.1	19.1	17.9	17.5	18.9
情幸	设化书	と資	3.3	5.7	7.9	7.5	4.7	7.8	9.8	6.3	4.4	9.4	5.9	5.4	8.8	7.5
環境	改善技	2資	6.6	12.3	15.8	24.5	16.5	18.8	16.4	16.7	17.8	18.9	19.1	10.7	7.0	9.4
そ	の	他	14.8	10.7	12.3	6.6	11.8	18.8	11.5	16.7	26.7	9.4	5.9	21.4	8.8	7.5

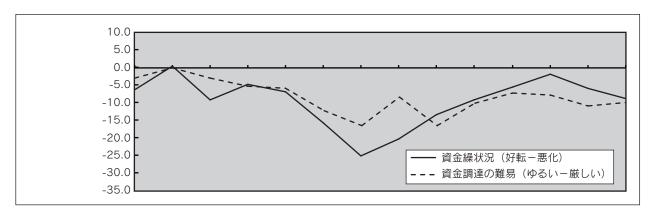


- (1) 22年4~6月に設備投資を実施した企業は全産業の17.7%と、前期比3.3ポイント減少した。投資実施企業は増加の兆しがみえたが、再び減少となった。先行きについても、今期の横ばいポイントとなっている。目的別では、生産能力の拡大が最も高く、次に省力合理化、環境改善投資と前期と同じ項目となっているが、ポイントは減少している。
- (2) 業種別では、設備実施のポイントは医薬品製造が最も高く、次に運送業、鋼材建材販売が高くなった。前期に高かった出版印刷紙加工、繊維のポイントはやや減少した。目的別では、生産販売能力拡大とするポイントが高く、省力・合理化を目的とする回答も増加している。先行きについては、出版印刷紙加工、百貨店スーパー小売、プラスチックが設備をする見込みが高いポイントとなっている。

VII. 資金繰り状況

資金繰状況 (好転-悪化)

=	並深1八	.701 (好	型一	忠(11)										(%)	見込	予測
		期別	19	年		20	年			21	年			22	年	
		V1111.1	7 ~	10~	1~	4~	7 ~	10~	1~	4~	7~	10~	1~	4~	7 ~	10~
	種別		9月	12月	3月	6月	9月	12月	3月	6月	9月	12月	3月	6月	9月	12月
	好	転	5.9	10.4	7.4	8.5	6.0	4.4	5.0	6.2	7.7	5.9	9.0	10.1	7.9	5.4
	変わ	らず	81.7	79.6	76.0	78.4	81.0	75.5	65.0	67.3	71.0	79.1	76.3	77.9	78.2	80.4
	悪	化	12.4	9.9	16.7	13.2	12.9	20.1	30.0	26.5	21.3	15.0	14.6	12.0	13.9	14.2
	D.	Ι.	-6.4	0.5	-9.3	-4.7	-6.9	-15.7	-25.0	-20.4	-13.5	-9.2	-5.6	-1.9	-6.0	-8.8



資金調達の難易	(ゆるい	一厳しい)
	(v × ~) v ·	LOX L Z V	,

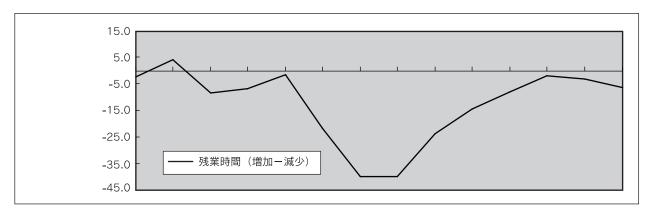
貝亚	则廷	リノ夫比グ	, (19)	a v	用 し	v ·)								(%)	見込	予測
		期別	19	年		20	年			21	年			22	年	
		V1111	7~	10~	1~	4~	7 ~	10~	1~	4~	7 ~	10~	1~	4~	7~	10~
種	別		9月	12月	3月	6月	9月	12月	3月	6月	9月	12月	3月	6月	9月	12月
ゆ	2	5 1,	10.6	10.4	12.2	7.9	7.5	5.9	4.4	5.9	5.1	7.3	9.7	10.2	9.2	8.9
厳	しく	ない	76.0	79.3	72.8	79.0	79.3	75.9	74.9	79.9	73.3	75.4	73.3	72.1	70.8	72.4
厳		, V)	13.4	10.4	15.0	13.1	13.2	18.1	20.7	14.2	21.5	17.3	17.0	17.8	20.0	18.7
D		Ι.	-2.8	0.0	-2.8	-5.2	-5.7	-12.2	-16.3	-8.3	-16.4	-10.0	-7.2	-7.6	-10.8	-9.8

(0() | | | | | | | | | | | | |

- (1) 資金繰状況D.I.「好転-悪化」実績は、前期比3.7ポイント改善され▲1.9となった。先行きについては、▲6.0とやや悪化の見込となっている。資金繰は、改善してきているがマイナスポイントであり、悪化するポイントが高い状況である。
- (2) 資金調達の難易D.I.「ゆるいー厳しい」では、▲7.6と前期比ほぼ横ばいとなった。先行きについては、資金繰状況と同じでやや悪化の予想となっている。まだ、資金繰については厳しい状況がうかがわれる。業種別では、医薬品製造、自動車販売が高いプラスポイントとなり、資金調達は安定しているとみられるが、不動産、宿泊業、繊維はマイナスポイントが高く、厳しいとの回答となった。

Ⅷ. 労務事情

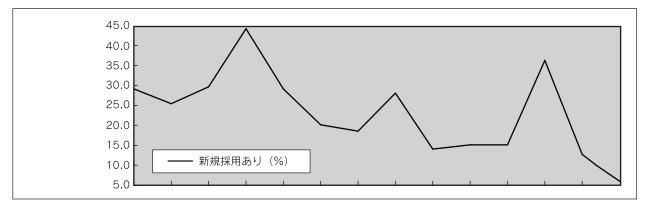
庋	業時	間													(%)	見込	予測
		、期	別	19	年		20	年			21	年			22	年	
			7111	7~	10~	1~	4~	7 ~	10~	1~	4~	7~	10~	1~	4~	7~	10~
	種別			9月	12月	3月	6月	9月	12月	3月	6月	9月	12月	3月	6月	9月	12月
	増		加	15.1	18.7	14.3	12.4	17.6	10.0	6.5	4.3	11.3	12.1	15.4	19.0	11.4	8.7
	横	ば	6.7	67.2	67.0	63.1	68.4	63.4	58.5	47.4	51.6	53.6	61.6	61.4	60.0	74.0	76.4
	減		少	17.7	14.4	22.5	19.2	19.0	31.6	46.1	44.1	35.1	26.3	23.2	21.0	14.5	14.9
	D .	I		-2.5	4.3	- 8.2	-6.8	-1.4	-21.6	-39.6	-39.8	-23.7	-14.2	-7.8	-2.1	-3.1	-6.3



(1) 残業時間D.Iは22年7~9月期▲2.1となり、前期比5.7ポイント改善した。残業時間は 21年4~6月期をボトムに、やや増加となっている。先行きについては、22年7~9月期 はやや減少予想となっている。業種別では、木材業、機械工業、自動車販売が増加の回答 となった。

新規採用実績(採用あり	:	%)	※常用・	臨時合算

新規採用表類(採用めり・%) ※常用・臨時音鼻 (%) 見込 予測												予測			
ſ	期別	19	年		20	年			21	年			22	年	
		7~	10~	1~	4~	$7 \sim$	10~	1~	4~	7 ~	10~	1~	4~	7~	10~
	種別	9月	12月	3月	6月	9月	12月	3月	6月	9月	12月	3月	6月	9月	12月
	全 産 業	29.2	25.6	29.7	44.5	29.3	20.1	18.6	28.1	14.0	15.2	15.3	36.5	12.8	5.4
	(うち製造業)	25.4	27.7	30.9	43.2	30.6	18.0	15.0	22.7	10.0	12.9	15.6	34.5	9.5	1.4
	(うち非製造業)	32.5	23.7	28.7	45.7	28.1	22.0	21.5	32.8	17.4	17.2	15.1	38.3	15.8	9.0

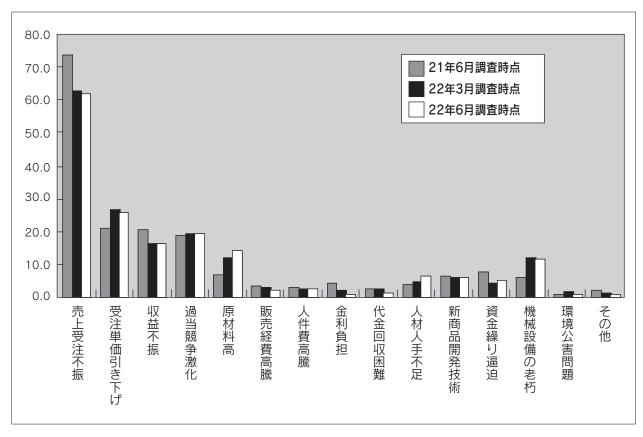


(2) 新規採用集計は、常用雇用・臨時雇用合算で集計している。集計を見ると、全産業につ いて4~6月の採用は全産業で36.5%であった。前期予想を上回る採用となった。前年同 期に比べても、8.4ポイント増加した。製造業は34.5%と前年同期比11.8ポイント増加 した。

IX. 当面の経営上の問題点

(%:複数回答あり)

	21年6月	22年3月	月 22年6月			前回比増減			
	(前年)	(前回)	(今回)	(うち製造業)	(うち非製造業)	11 E1 ZUZE 1/M			
売 上 受 注 不 振	73.5	62.7	61.8	(54.7)	(68.0)	-0.9			
受注単価引き下げ	20.6	26.5	25.6	(31.8)	(20.1)	-0.9			
収 益 不 振	20.0	16.4	16.4	(12.2)	(20.1)	0.0			
過当競争激化	18.5	19.4	19.2	(14.9)	(23.1)	-0.2			
原 材 料 高	6.5	12.0	14.2	(21.6)	(7.7)	2.2			
販 売 経 費 高 騰	2.8	3.1	2.2	(2.7)	(1.8)	-0.9			
人 件 費 高 騰	2.5	2.5	2.5	(1.4)	(3.6)	0.0			
金 利 負 担	3.7	1.9	0.9	(1.4)	(0.6)	-1.0			
代金回収困難	2.2	2.5	1.3	(0.0)	(2.4)	-1.2			
人材人手不足	3.4	4.6	6.3	(6.1)	(6.5)	1.7			
新商品開発技術	5.8	5.9	6.0	(12.8)	(0.0)	0.1			
資金繰り 逼迫	7.4	4.3	5.0	(3.4)	(6.5)	0.7			
機械設備の老朽	5.5	12.0	11.4	(16.2)	(7.1)	-0.6			
環境公害問題	0.3	1.5	0.9	(0.7)	(1.2)	-0.6			
その他	1.5	1.2	0.9	(1.4)	(0.6)	-0.3			



- (1) 今回の調査の全産業での当面の経営上の問題点をみると、①売上受注不振61.8%(前期 ▲0.9ポイント)、②受注単価引下げ25.6%(前期比▲0.9ポイント) ③過当競争激化 19.2 (前期比▲0.2ポイント)の順になっている。
- (2) 今回調査でも、毎回高いポイントであるが売上受注不振とする回答が前期比低下してきている。しかし、原材料高を理由とする回答は14.2と2.2ポイント増加している。
- (3) 業種別でも、全ての企業が売上受注不振を問題点とし、高い順位のポイントとなっている。また、機械工業、宿泊業では機械設備の老朽、医療福祉では人材人手不足、百貨店スーパーでは過当競争激化が問題点なっている。